

る間は、関税を賦課しないことが法規上認められている。このように関税の賦課を一時留保されている貨物を保税貨物という。保税倉庫・保税工場等にある貨物、保税運送の途中にある貨物等はその例である。(高柳 卓)

ぼぜいそうこ 保税倉庫 外国貨物を置くことができる場所として、税関長が許可した倉庫をいう。→保税地域。(鈴木与吉)

ぼぜいちいき 保税地域 輸出の許可を受けた貨物および外国から到着した貨物で、輸入が許可される前のものを外国貨物というが、外国貨物はその性質上税関の監視下にあるので、その蔵置・加工その他は一定の場所にかぎって行うことができる。この一定の場所が保税地域であって、指定保税地域、保税上家、保税倉庫、保税工場の4種がある。(鈴木与吉)

ぼせん 保線 旅客・貨物をじん速かつ安全に輸送することは鉄道を敷設する直接の目的であって、この目的を達するためには種々の設備・施設を必要とするのである。鉄道経営を行うにはこれらの施設が鉄道の営業に適合するようたえず保守管理してゆかねばならない。鉄道の有する設備・施設のうち、鉄道財産の主要部分をしめる線路、建造物、付帯用地ならびに保安設備を常時運転に支障のないように保守・管理する業務を一般に保線という。(伊地知堅一)

ぼせん 保線(地下鉄道の) 地下鉄道の線路の保守のこと。地下鉄道は列車運転の間隔が短く、列車速度が速く、かつ隧道(ずいどう)内運転であるために軌道の巡視、点検以外の保線作業は非常に困難である。したがって終電と初電との間のごく短時間内に作業を行わなくてはならない。このために地下鉄道の軌道構造は、その保守量が少なくすむように設計されている。すなわち軌条は長尺軌条を用い、道床もコンクリートか砕石砂利を用い、かつ夜間隧道内作業であるため相当な照明が設備されている。

地下鉄道は基礎がコンクリート床板であるため、砕石道床区間でも道床作業は少なく、また軌道の狂いも少ない。しかし曲線部等における軌条の波状摩耗、タイプレートおよび継目板の摩耗は、隧道内であるために騒音防止上、とくに早めに更换する必要がある。枕木についても湿度が一般鉄道にくらべて高いので腐食が速く、素材枕木は早めに更换の必要がある。また地下であるため排水設備の保守・漏水防止等には留意する必要があるが、とくにこう水時の場合は隧道出入口、または停車場出入口よりの浸水について嚴重な防水作業を行わなくてはならない。なお作業は主として深夜作業であるために保線従事員の衛生管理については、とくに注意しなくてはならない。(江里口正夫)

ぼせん 母線 発電所・変電所等で送電、受電、き電および配電をする電力全部を負い、各系統に電力を分配するための重要な設備。一般にその材料は銅ねん線、銅帯、銅管等が用いられているが、電流少なくしかも電圧が高くてもコロナ現象のため相当太いものを要する場合には、鉄管を使用することがある。

母線をそれぞれ構造上より分けると、つぎの3種に分けることができる。

1 単母線 設備が簡単であるので設備費も安価で保守上からも最も簡単であるが、設備に余ゆりがないため母線に事故が起きた場合には、これが復旧するまで電力の分配が不可能となったり、一部制限しなければならない場合がある。また異系統の電力を同時に分配することができない場合も出てくる。このように電力の運用上確実性および融通性が乏しい。一般に送電線等母線に接続される回線数の少なく、容量もあまり大きく

ない末端に近い変電所で使用する。国鉄の直流電気を供給している直流変電所は、回線数が少ないことや、保守の簡易および経費の点から新しい変電所はほとんどこの単母線に設計されている。

2 複母線 複母線は、2つの単母線を設備して、いずれか一方を使用し、他方を予備としておいたり、また異系統の電力を同時に送受電ができる等が運用上単母線に比較してこの欠点を補うことができる。しかし設備費は高価となる。国鉄ではこの種の母線を設備する所はおもに大容量の1次変電所や、回線数が比較的多い市街地の重要な開閉所はほとんど複母線となっている。直流変電所でも旧い所はこの複母線を設備している所がある。

3 環状母線 この母線は複母線の両端を接続したように環状となっている。したがってある1つの給電線に対して、右回りと左回りの両方から供給されるから融通性には富んでいるが、系統分離が行われて環の一部が解けると、その特長は喪失して単母線と同じになり、比較的に設備費が高い割に融通性に乏しいので、あまり用いられていない。

これらの母線は、さらに使用場所に応じてつぎの5種に大別して呼称されている。

1 受送電母線 おもに特別高圧10,000V以上の電圧の回線に接続されて、必要の電力を各系統より受電し、他の系統に送電している。

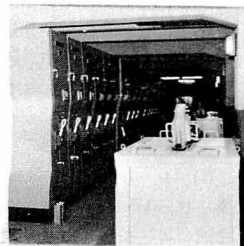
2 機械母線 変電所の受送電母線に比較的多くの系統を接続して受電および送電している場合、これと同じ母線に主要の機械を接続して運転していると、機械の故障その他のために他の重要な回線にも停電等の影響をおよぼすことが多い。このようなことのないように機械母線を単独に設けている。

3 直流母線 正極用と負極用とに分けられる。正極母線は各機械から発生した直流電力をこの母線に入れ、各方面のき電線に給電している。電圧は600V、750Vおよび1,500Vであって、国鉄では一部を除き、おもに1,500Vである。負極母線はレールより帰る電気をこの母線に入れ各機械に接続される。

4 Z母線 き電設備の点検作業または事故の場合、従来は共通開閉器を投入してき電を継続して来たが、これは大きな事故の原因となる可能性がある。また最近の大都市近郊においては電気運転用車両の大形化と輸送量の増大に伴い、き電電流が著しく増大し、1台の高速遮断器で2回線以上のき電を行うことは不可能である。ゆえにZ母線を設けて作業その他の場合この母線を使用してき電する。

5 高圧母線 交流3,000Vの回路の設備で、信号高圧、電灯電力高圧等が接続され各回線に電力を送っている。

変電所が市街地外にある場合には受送電母線は屋外に設備し、他の母線はいずれも屋内に鋼材によって組むくを造り、これで支持するいわゆる露出型である。市街地の変電所は全部屋内設備となるので、特に特高の受送電母線は隠蔽型すなわち定められた間隔にコンパート(隔壁)を造り、各相ごとに仕切られた室に納めて部分的故障による弧光が他に波及せぬような構造としている。最近の傾向としては屋外設備のある所は高圧母線も屋外に設備し、屋外設備がない変電所の受送電母線および直流母線はねずみその他の小動物の侵入を防ぎ、かつ無用者



1. キュービクル式直流正極母線